



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために



Kalyan Banerjee

カルヤン・バナネルジー
2011-12年度国際ロータリー会長

No. 4

Takasago Rotary Club

週報

高砂

クラブ会長方針

原点にかえり大いに語ろうロータリーを

- ① 会員相互・家族との親睦を図ろう
- ② 会員が中心の明るく楽しい例会運営
- ③ ところを伝える広報をし、仲間を増やそう
- ④ CLPの検討

例会記録 (2011. 7. 22 (金)) 通算2,858回

◆開会

◆唱歌

ロータリーソング (我等の生業)

◆「四つのテスト」唱和

◆ゲスト紹介

2860地区ガバナー補佐
加古川中央RC 大庫俊介 様
随員 上月和洋 様



左) ガバナー補佐 大庫俊介様
右) 随員 上月和洋様

◆プログラム予定

7月29日 (金)	8月5日 (金)	8月12日 (金)	8月19日 (金)
クラブフォーラム 2011~2012 事業計画発表	クラブアッセンブリー ガバナー公式訪問 ガバナー 久野 薫氏	休会 (定款第6条第1節(C)による)	移動例会 於: 大黒天

◆入会式

新会員 中木村 明会員



入会式 新会員 中木村明会員



新会員 中木村明会員

◆出席報告

本日 7月22日 会員数51名 出席者 33名 出席率 76.74%
前々回 7月 8日 会員数50名 修正出席者41名 出席率100.00%修正

◆MAKE-UP

伊藤 輝彦会員	e - C L U B	7月18日	
伊地知正治会員	e - C L U B	7月15日	7月8日分
田中 泰生会員	e - C L U B	7月18日	7月8日分
田中 泰生会員	e - C L U B	7月19日	7月15日分
寺崎 道雄会員	e - C L U B	7月15日	7月15日分
桂田 重信会員	神戸中ロータリークラブ	7月19日	7月29日分

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

加古川中央RC 大庫俊介様……ガバナー補佐として年度始めの訪問も最初、公務としてのクラブアッセンブリーも最初と、初めてづくしです。

緊張の中、友情と、寛容をお願いします。

覚野成広会長・西田秀雄幹事……大庫ガバナー補佐、本日はよろしくお願ひ致します。

中木村様入会おめでとうございます。これからよろしくお願ひ致します。

中野 哲郎会員……中木村君、入会おめでとう、これからもよろしく。

大庫ガバナー補佐、ようこそ、昼間にお会いするのは、ゴルフ場以外では久しぶりですね。

籠谷 啓一会員……大庫ガバナー補佐様ようこそ！

脇谷 政孝会員……大庫ガバナー補佐様ようこそ、中木村会員の入会を心より歓迎いたします。会員の皆様、天理大学柔道部の後輩をよろしくお願ひ致します。

大村 泰司会員……大庫ガバナー補佐、本日はよろしくお願ひ致します。

河合 利昭会員……中木村様、高砂ロータリークラブ入会おめでとうございます。これから宜しくお願ひ致します。

新井 哲三会員……大庫ガバナー補佐をお迎えして。
永野 力会員……大庫ガバナー補佐、御苦労様です。
早退1名

◆幹事報告（2,858回）

- RI2520地区ガバナー榎山直樹様より、東日本大震災ご支援の御礼が届いております。
- 大和会事務局より、だいわかいニュース49号が届いております。
- 高砂観月能の会より、第15回たかさご観月能後援ご申請のお願いが届いております。
- 関西電力株式会社より、広報誌「わっと」646号が届いております。
- ガバナー事務局より、公式訪問のご連絡・公式訪問に関してのお願いが届いております。
- ガバナー事務所より、7月9日（土）会員増強セミナーでのアンケート調査集計結果報告書が届いております。
- 直前ガバナー、柴田整宏様より「ポリオをなくそう チャリティーコンサート世界をつなく」報告書が届いております。
- 相生RC・明石RCより、週報が届いております。
- 高砂商工会議所青年部より、キャンドルカフェポスター及びちらしが届いております。
- NPO山頭火顕彰キングダーの会より、第20回全国山頭火フォーラムIN高砂2011ご案内が届いております。

※例会変更のお知らせ

◎加古川中央RC 8/4(木) 12:30～ → 18:00～ 加古川プラザホテル
1F ボールルーム
8/11(木) 休会 [定款第6条第1節(C)による]



幹事報告 西田秀雄幹事

◆会長の時間

なでしこジャパンの世界一に沸き、久々に感動した一週間でした。

佐々木監督が昨年11月にワールドカップの組合せ抽選終了後出版された「なでしこ力 さあ、一緒に世界一になろう！」という本があります。

この本の最後に監督は、選手が成長するかどうかは、技術や知識ではなく「決意が本物かどうか」で決まる、選手たちは本気で世界一を目指すという決意に満ちている。その決意があるからこそ、

彼女たちはさらに自分を高め、仲間を信じる事を諦めない。僕も決して諦めない。女子



覚野成広会長

サッカーに関わる全ての人に、僕はこう呼びかけたい。

さあ、一緒に世界一になろう！と呼びかけて終わっています。

ワールドカップ前にこのような本を出す事によって、よりいっそう自分自身の決意を高めると共に、陰で支えて頂いた方々への感謝のメッセージのようにも感じました。

一つの物事を達成するには強い決意と良きパートナーが必要と言う事を改めて教えて頂いた気がします。

私自身も零細企業の経営者として自己研鑽をし、良き指導者に近づけるよう努力をしていきたいと思えます。

◆本日のプログラム

クラブアッセンブリー ガバナー補佐公式訪問 国際ロータリー 第2860地区 ガバナー補佐 大庫俊介様

みなさま、今日は。2週間前にお邪魔させていただきましたが、今回はガバナー公式訪問前の、クラブアッセンブリーということで、再度の訪問となりました。

本日より、ガバナーの公式訪問もスタートであります。12月13日まで、約5カ月に及ぶ74ロータリークラブの訪問ということで、まさにガバナーにとってロータリー三昧の日々であると思われれます。

私も、今週は毎日ロータリーの訪問が続いており、しかも今日は持ち時間も長く、いきなり前半戦のピークを迎えております。こんなにロータリーをまじめにやっているのが、果たして私の本当の姿なのか、自問自答している日々でございます。

さて、ちまたでは、なでしこジャパンの快挙で持ちきりであります。ドイツへの出発の時は、見送りも少なく、マスコミもあまり注目もしていませんでしたが、一夜にしてシンデレラガールとなりました。何事も結果がすべてと痛感されました。

日本サッカーの父と称されるドイツ出身のサッカー指導者がいます。デットマール・クラマーという方で、1960年、東京オリンピックを控えた日本代表を指導するためにやってきた彼によって、日本代表はベスト8になり、次のメキシコでは、奇跡の胴メダルを獲得しました。

今の日本サッカーは彼がいなければ存在し得なかったと言われるほどの人でしたが、彼はかつて日本選手の覇気のない姿に怒って「ドイツにはゲルマン魂がある。日本には大和魂がないのか」と言ったそうですが、今回彼女たちは大和撫子魂で、我々日本人を勇気づけてくれました。

また、デットマーク・クラマーは、サッカーはトイレのサンダルと同じだよとも言いました。トイレで用を足した後、サンダルをそろえておかないと、次に使う人はどうなる？

サッカーは思いやりだ。パスを受ける人の立場になって受けやすいボールを出すことから始まる。

これから何十年も続く人生も同じだ。人を思いやる気持ちを大事にきなさい、と選手たちに言ったそうです。



ガバナー補佐 大庫俊介様

さらに彼は、試合で勝った者には友人が集まってくる。だが、本当に友人が必要なのは、敗れた時であり、敗れた方である、そう言って敗れたチームのロッカーを訪れたそうであります。

素晴らしいリーダーの一人として、ぜひ、我々ロータリアンもその言動を参考にしたいと思います。

さて、前回訪問させていただいた時に、ちょうどしました週報の中で、覚野会長が就任の挨拶で、ロータリーに入会した年が、阪神淡路大震災の年、そして会長になる年に今度の大地震で、偶然とはいえ心から離れませんかと述べておられました。

阪神淡路大震災においては、日本はしっかりと立ち直りましたが、今回は政治のリーダーシップの欠如が言われ、果たして、日本が今度もしっかりと復興するのか、懸念が持たれております。

ところで、18世紀のヨーロッパでフランス革命と並ぶ重大事件とされているのが1755年にポルトガルを中心に起こったリスボン大震災でありました。(1755年11月1日の朝)

地震とそれに伴う津波によって壊滅的な被害を受けたポルトガルは、その後、この地震を契機に国力は徐々に衰退し、250年を過ぎた今日まで回復することはなく、今日、財政破綻の危機を迎えております。

専門家によれば、当時のポルトガルと現在の日本の状況は極めて似ていると言われております。すなわち、もともと大航海時代にスペインと並ぶ強国だったポルトガルは、地震が起きた当時は、イギリスにその地位を取って替わられようとしていました。日本もアジアの盟主の地位を中国に奪われる瀬戸際の状態であります。

また資産を持たない貿易立国という点では両国は同じ状況であります。既に震災前から日本の財政危機が叫ばれていましたが、ポルトガルのような長い年月を経ずに日本が財政破綻するリスクが高まっていると言われております。我々ロータリアンにとっても、大きな試練が待ち受けていると言えます。

リスボン大震災で、もう一つ大きな転換を迎えたのが人間の精神面でした。

当時のポルトガルは多くの教会を援助し、海外の植民地にもキリスト教を啓蒙していた敬虔なカトリック国家でありながら、11月1日というと、^{ばんせいせつ}万聖節というキリスト教徒にとっての大きなお祭りの、まさにその日に、多くの聖堂もろとも破壊されたことにより、神を中心とした神学的な世界観が崩れ去りました。・・・その前日の行事がかぼちゃの飾りなどで有名なハロウインの日です。為念・・・

元々、ヨーロッパは地震は非常にまれであったため、当時のヨーロッパの知識人にとって、リスボン大震災は衝撃的であったと言われております。この地震によって大きな精神的影響を受けた一人が有名な哲学者であるカントだそうです。

カントは「荒れ狂う海、暴風、雷、こうした人間の力をはるかに超えた巨大な自然現象は人間に恐怖心を起こさせる。それは人の命も財産もすべて一瞬にして破壊尽くすだけの力を備えている。そのことに人は、本能的に恐怖を感じる。しかし、理性の力と想像力をもって、人は自然現象を解明し、恐怖を乗り越えることができる。その時、人は自然に対し「崇高」な感じを持ち、その崇高さによって、人格性を高め、自然を支配することができる。」

そしてカント自身は理性の限界をよく理解し、人間の能力が万全などとは考えておらず、人間がただ生物的な存在として自然にひれ伏すのではなく、理性の力によって自然に働きかけ、さらに社会に働きかけてこれを変革し、一層の幸福を手に入れると考えたのですが、やがて人類は科学と技術の力を万能であるかのようにみなし、その極限に核兵器と原発が出来上がりました。

明治維新で日本が世界に開かれてから77年後に、広島と長崎に原子爆弾が落ち、人類史上初

めて核の被害を受け、そしてそれから今度は66年後に、福島での事故が起きました。何かそこに日本という国の特異な運命を感じます。

もし、この震災によって我々の精神面において、変化が生まれるとすれば、果たしてどのような変化なのでしょう。

ローマ法王ベネディクト16世に、震災に遭遇した7歳の日本人の少女が質問しました。「私はとても怖い思いをしています。大丈夫だと思っていた家がとても揺れ、同じ年頃の子供たちがたくさん亡くなりました。なぜこんなに悲しいことになるのか、神様とお話できる法王様、教えてください。」

それに対して、法王は「私も同じように自問しています。他の人たちが快適に暮らしている一方で、なぜ皆さんがこんなにたくさん苦しまなくてはならないのか？ 私たちはこれに対する答えを持ちません。でも、イエスが皆さんのように無実でありながら苦しんだこと、イエスにおいて示された本当の神様が、皆さんの側におられることを、私たちは知っています。たとえ、私たちが答えを持ち合わせていなくても、たとえ悲しみは残っても、このことは私にはとても大事なことに思われます。今、大切なことは神様は私を愛しておられると知ることです。私たちは、あなたと、そしてすべての苦しむ日本の子供たちと共にいます。私たちは、祈りと行いを通して皆さんをお助けしたいと思っています。そして、神様が皆さんを助けて下さることを信じてください。その意味で、皆さんに一刻も早く光りが訪れるよう一緒にお祈りしましょう。」と答えました。

ちなみに、十字架に架けられたイエスの言葉は「エロイ エロイ ラマ、サバクタニ」すなわち、主よ、主よ、なんぞ我を見棄てたもうや、でした。そして、最後にさらに、主よ、すべてを御手に委ねたてまつる、と言ったといわれています。

しかし、ロータリアンである我々はただ祈るだけではなく、行動を起こさなければなりません。既に阪神・淡路大震災を経験した地区として、リーダーシップを発揮すべく、久野ガバナーは震災復興支援会議を立ち上げ、震災の復興支援を本年度の第一の優先順位として具体的な行動を始めました。地区内のロータリークラブもそれぞれの活動を開始しております。

芦屋ロータリークラブでは本日より来週の月曜日まで、岩手県石巻市の小学生を招待し、かつて震災の被害を受けた地元の小学生との交流の中で、傷ついた心を癒し、復興への希望と笑顔を取り戻してもらう企画を組んでおります。

さらに、私の知る範囲では、西宮ロータリークラブにおいて、被災家庭に温かい愛の灯をともしプロジェクトとして、厳しい冬に備えて、仮設住宅や避難所で暮らす人々に、ポリ缶と灯油を届ける企画を考え、小野加東ロータリークラブでも地元のNPOと被災県の物産品の販売会を企画されています。

国際ロータリーが初めて対外的な大規模支援を行ったのが、関東大震災の時でした。

1920年、東京ロータリークラブが日本で初めてできましたが、創立当初は例会も月に1回、時には休会があったりして、出席率も低く、関心も低いため、存続も危ぶまれる雰囲気だったそうです。

そして、1923年に関東大震災が起こったのですが、これが日本のロータリークラブの運命を大きく変えることになりました。すぐに当時のRI会長からお見舞いの電報と25,000ドルの義捐金が、その年に2番目に設立され、被害を受けていない大阪ロータリークラブを通じて送られ、さらに世界各国のロータリークラブから89,000ドル（現在の価値にして約3億円）が送られました。その義捐金をもとに東京ロータリークラブが小学校の再建や被災者の救援を行い、このことによって東京ロータリークラブの会員たちはロータリーの運動の何たるかを身にしみて



理解し、ロータリーの友愛と奉仕活動に深く感銘し、以後の活動につながり、その後、神戸、名古屋、京都、横浜とロータリーの拡大につながっていったと言われています。

さて、こういう経緯をたどったロータリーですが、その東西を代表する日本とアメリカがともに抱えている大きな問題が会員数の減少であります。

アメリカでは1994年をピークに14.5%減少
日本ではさらに激しく、1997年をピークに

32%の減、当地区でも1994年をピークに29.6%の減となっています。

企業で考えれば、売上の30%減少するという事は、赤字転落を余儀なくされ、その存続も危ぶまれる状況であります。

地区チーム研修セミナーにおいて、久野ガバナーは組織変貌の要因として4つの要因をあげています。

一つ目が社会的要因。すなわち、社会情勢や経済情勢、そして人口動態の問題です。とりわけ、ロータリーにおいては経済情勢が大きな要因となります。

そして、二つ目が人的要因。すなわち、価値観の変化と心の劣化。

三つ目がロータリー自体、すなわちロータリーそのものの要因。それはロータリーとしての哲学の喪失と財団主義の台頭によるロータリーの魅力の喪失。

最後の四つ目がクラブ内の要因。すなわち、ロータリー活動の形骸化、マンネリ化、さらに学ぶ意欲の喪失。

さすがに、しっかりとした論理的思考を持つ久野ガバナーらしい的確な分析であると思われます。

私たちはともすれば会員の減少については、半ばやむを得ない、あきらめに近い気持ちがあるのも事実であります。

しかし、一度この要因をもとに現状をしっかり分析し、正面から取り組むことも考えてみてはいかがでしょうか。

本年度、覚野会長はテーマとして「原点に返り大いに語ろうロータリー」を挙げておられます。是非、大いに語ってください。

また、久野ガバナーは今月の月信で、東西のロータリーの温度差について触れておられます。すなわち、論理を大切にす西洋では、奉仕の実践そのものがロータリーの本質であり、たいして、情緒を大切にす我々は、高い職業倫理をロータリーの本質に求めるとして、その温度差を指摘されています。

そして、心や倫理にウェイトを置く我々日本人にとっては、本年度のインド出身のカルヤン・バネルジー R I 会長のテーマは昨年のテーマと比べても共感を得るものがあります。すなわち、Reach Within to Embrace Humanity、「こころの中をみつめよう 博愛を広げるために」をテーマとして掲げ、それを実践することをロータリアンへの願いとして訴えておられます。

インドからは3人目の R I 会長となります。インド出身の R I 会長のテーマはいずれも東洋的とういのか精神的なテーマがあげられています。

1962～63年に会長となったニッティシ・ラハリー氏は Kindle the spark within、「内部に火を燃やせ」をテーマにしました。そして、1991～92年に会長になったエジェンドラ・サプー氏は Look beyond yourself、「自分を越えた眼を」をテーマにしました。

彼らに共通するキーワードは、within と beyond です。すなわち、within によって自分の心の奥深く入り込み自己を省みる。そこに生まれるのは変化であります。

そして、beyond によって、その自分自身を超えて世界を変えていく。それが今年のテーマであります。バネルジー会長は、インドの偉大な先人であるガンジーの言葉を挙げています。すなわち、「世界の変化を望むのなら、あなた自身がその変化にならなければならない。」

自分が変わらなければ何も変えることはできません。ちなみにイギリスからの独立運動の父であったガンジー自身も自分を変化させました。

小学校時代は素行も悪く、ヒンズー教の戒律で禁じられている肉食を繰り返し、タバコに手を出し、そのためのお金を盗んだこともあったガンジーは、南アフリカで弁護士として働く中で人種差別政策と出会うことになります。

皮膚の浅黒い一人の青年が列車の一等車に乗っていたため、放り出されます。それが、ガンジーでした。やがてインドの独立運動にまい進することになったガンジーは週に一度を沈黙して過ごしたそうであります。話すのを控えることで、心の平穏が得られると信じたということでもあります。

本年度のバネルジー会長も朝5時半のヨガから一日が始まるということでもあります。もともとヨガという言葉は語源的には馬にくびきをかけるという意味で、くびきによって馬は自由が束縛されます。それと同じように心身を制御するという意味から来ています。

インドを代表する宗教であるヒンズー教に有名な教えがあります。

心が変われば 態度が変わる
態度が変われば 行動が変わる
行動が変われば 習慣が変わる
習慣が変われば 人格が変わる
人格が変われば 運命が変わる
運命が変われば 人生が変わる

本年度のR Iの強調事項の一つは変化であります。そして、真の変化は自分の内面から始めるものであると述べておられます。

来年度はいよいよ日本からR I会長の誕生です。インド同様に3人目、30年ぶりの日本人の就任であります。是非、衰退傾向にある日本のロータリーに歯止めをかけ、今年がまさに日本ロータリーにとっても復興の一年であることを願って本日の話の閉めとさせていただきます。ありがとうございました。

会長 覚野 成広 幹事 西田 秀雄
例会日時 毎週金曜日12時30分より
高砂ロータリークラブのホームページのURL

雑誌会報委員長 井本 雅也
例会場 高砂商工会議所2階会議室
http://www.winwin.ne.jp/~takasago_rc/